



ばらばらで一緒

～美香保中だより～

発行 札幌市立美香保中学校

住所 東区北17条東6丁目1-1

電話 (011)-711-8151

「第77回美中祭『Break Through』」

生徒会部

10月2日(金)に実施した第77回美中祭は、『笑顔の華が咲く美香保中学校』を創ってきた第76期生徒会からのバトンを受け取り、昨年10月から“Break Through”をスローガンに、『学年の壁を壊し、限界を決めずに挑戦する美香保中学校』を目指して様々なことに挑戦してきた第77期生徒会の集大成でした。

第77期生徒会では、特に異学年交流の充実に重点を置いて活動を進めてきたこともあり、今年度の美中祭では、新たな挑戦として学年ごちゃまぜのステージ部門と装飾部門を新設しました。5月に行った生徒総会でごちゃまぜステージ部門の発表内容について協議し、全校生徒の投票で「クイズ大会」に決定してから、教員も生徒も初めての挑戦に試行錯誤しつつも、学年の壁を超え



て和気藹々と準備する姿がみられ、当日は会場全体が大いに盛り

上がりました。ごちゃまぜ装飾部門では、各学年から集まった生徒が協力して製作のリーダーシップをとり、全校生徒が色を塗ったパーツを組み合わせて美中祭のシンボルマークを完成させました。各学年部門のステージ発表や校内を彩る装飾からは、各学年らしさあふれる挑戦のあとが感じられ、全校生徒で第77期生徒会らしい美中祭を創り上げようという思いや繋がりが伝わってくる1日となりました。美中BOX（生徒会意見箱）を活用して全校生徒の声を聞き、一つ一つの壁をクリアしてきた第77期生徒会は終了しますが、そのバトンを受け継ぎ、10月13日（火）には第78期生徒会結成集会を行いました。77期生徒会での数々の挑戦を糧に、これからも自分たちの力で、自分たちの学校をもっと好きになれるような生徒会活動をしていってほしいと思います。



最後になりましたが、ご来場の皆様をはじめ、保護者の皆様には多大なるご協力をいただき、学校職員一同、深く御礼申し上げます。新たに始まる第78期生徒会の挑戦をともに見守り、今後ともご支援いただけますと幸いです。

以下、美中祭の様子を各学年の生徒代表作文でお知らせいたします。

『美中祭の感想』

1年1組

まず、美中祭の感想は、想像以上に劇や小物のクオリティが高かったことです。想像以上というのは、中学校に進学してから初めて経験する行事なので、小学校の頃と差はあまりないと勝手に思っていたからです。実際は小学校の時よりレベルが段違いで高かったです。去年とメンバーが変わったり、先生方の指導の影響があると思います。

ステージ発表で一番心に残ってるのは、一年生の「Starting Over」です。理由は、ナレーションと、作りこまれたキャラクター設定、キャラクターに合った話し方です。たぶん、キャラクターの説明があった上での演技だったので、合っていると思えたんだと思います。特にすごいところは、キャラクター紹介の時に止まるところや、セリフが揃っていて、演者の演技や声の大きさがとても良かったことです。

成長したと思ことは、装飾の仕事などで最後まであきらめない集中力です。また、装飾チーム内の小さな班での共同作業を通して協調性が少し成長したと思いました。

今回の美中祭を通して、協調性、集中力が自分だけではなく全体でいろいろと成長できたと思います。



『美中祭』

3年5組

美中祭では、劇の演技や即売会をがんばりました。劇では、声の大きさに気を付けて、お客さんに聞こえるようにゆっくりしゃべることができました。ダンスをやる時は、たくさん練習をして、本番でも苦手なダンスをやっと克服してできるようになりました。心配だった所は、アースラがやってきて、人間になる所で暗転する前にまちがって衣装を外してしまったところです。演技ではセリフや動きもがんばって父と母にほめられてうれしかったです。

2年生のステージ発表では、衣装がかわいかったし、セリフや動きも上手かったです。最後のダンスも素敵でした。ごちゃまぜステージでは、クイズ大会をやる時に私は、心の中で5組の二人を応援していましたが、結局どちらとも王冠がもらえなくて少し悔しかったです。1年生のステージ発表では、たくさんの生徒や先生がいて心の中ですごいと感じました。劇はテレビで観ましたが、転校生がまさかの夏っぽいコーデを身に付けていて少しびっくりしましたが、面白かったです。怖いところもありましたが、途中と最後のダンスがみんなかっこよくて素敵でした。3年生のステージ発表では、動きがかっこよかったところとパフォーマンス的なダンスもいいシーンでした。面白かった所は、急にホラーになったかと思いきや、まさかの人体模型が動いてしゃべったシーンと人体模型の横にある犬みたいな動物も急に動き出したところです。楽器を使ってエンディングを演奏するのもよかったです。

即売会では、キーホルダーや魚釣りゲームやお皿などを販売して、色んなお客さんに商品や、おつりをわたすこともがんばりました。父母や友達も来てくれて嬉しかったです。美中祭のエンディングの前では後にみんなで壁をこわすために大きいボールをタッチして、青いスライムをたおすことができました。楽しい最後の美中祭でした。来年に入る高校でも文化祭をがんばりたいです。

『スポットライトの裏側で』

2年3組

今年の学校祭で、私はステージ発表の大道具部門として劇で使うドアと黒板の制作に挑戦しました。最初は、ただの大きな段ボールから、劇にふさわしい本物そっくりの道具を作れるのかとても不安でした。特に苦労したのは、ドアの制作です。劇の中で役者が何度も回転させるためすぐに倒れたり壊れたりしないよう、裏側を木材やガムテープで頑丈にするのが大変でした。また、黒板の制作では、遠くの席から見ても学校の教室らしく見えるように、緑と黒、黄色、

白を混ぜた絵の具を何度もムラなく塗り重ねる工夫をしました。

準備期間中には、毎日放課後の最後まで同じ部門の仲間と作業を続けました。手が絵の具だらけになったり、思ったような形にならず悩んだりしましたが、みんなでアイデアを出し合って乗り越えることができました。

本番当日、私たちが作った大道具がステージ上で立派に役目を果たし、劇が成功で終わった時は、言葉にはできないほどの達成感がありました。

この経験を通して、私は「見えないところで舞台を支えることの重要性」に気づき、物事を先回りして考えて工夫する力が身に付きました。今までは目立つ役割ばかりに目を奪われがちでしたが、地道な準備があってこそ全員で成功をつかめるのだと実感しました。裏方として一つの大きな舞台を作り上げたこの経験を自信にして、これからの学校生活でも主体的に周りを支えていける自分でありたいです。

『美中祭を振り返って』

3年1組

私が今回の美中祭で感じたことは、「breakthrough」の集大成です。

ごちゃまぜの発表やステージ準備中の合間に行うインタビューなどでは、全員が等しく笑い、楽しむという空間ができていました。こういった、面白くて笑う、他学年の発表に対して手拍子や拍手をするなど、ふとした行動や瞬間に「breakthrough」が実現していると感じました。

これらは、決して一人で実現できることではなく、今までの小さな積み重ねから形成されていきます。今までは、自分に他学年とのつながりをあまり感じられていませんでした。ですが、今回の美中祭で「感じられていない」のではなく、「感じようとしていなかった」のだと気付くことができました。

これまではなんとなく楽しんでいた美中祭でしたが、「breakthrough」という目標もそれを実現させるための活動も、この生徒会、この学校でなければで



きななかったことと思い、本当の意味で美中祭を楽しむことができました。これからも色褪せることのない体験ができたと思いました。



令和8年度 美香保中学校「学習と生活に関するアンケート」

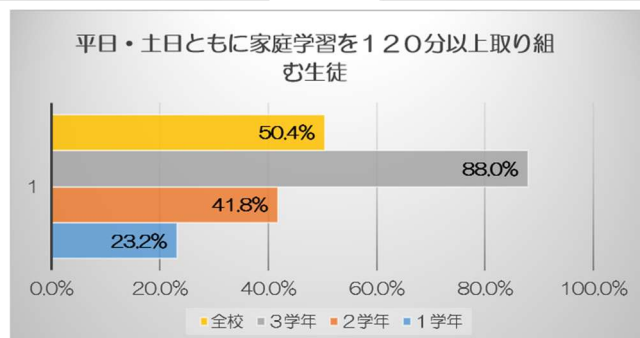
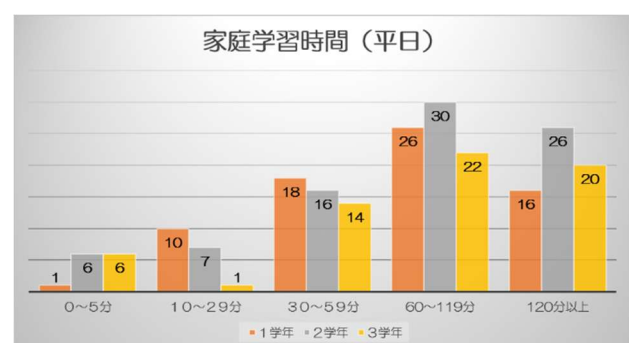
全校集計分析（1学期）から見えてきたこと

この度、生徒の皆さんを対象に実施した家庭学習に関する調査結果がまとまりましたので、御報告させていただきます。今年度も昨年度に引き続き全体として学習への前向きな変化が見られる一方で、学年ごとの課題や生活習慣との関係など、引き続き注視すべき点も明らかになりました。

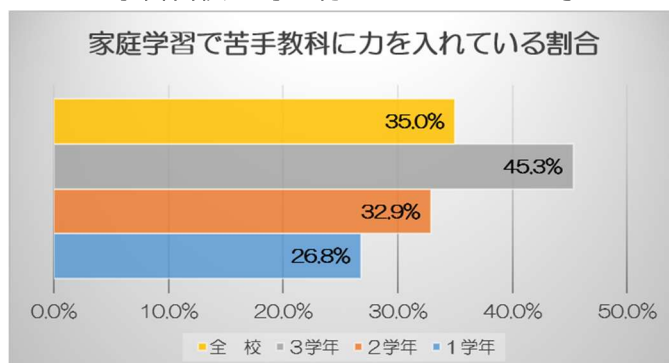
1. 家庭学習時間について

今年度の家庭学習時間は、全体平均で平日 80.7 分、土日 92.4 分と、平日、土日ともに昨年度の数値を下回りました。

各学年を見ていくと、1学年は平日 74.3 分、土日 78.9 分、2学年は平日 86.8 分、土日 96.2 分、3学年は平日 81 分、土日 102.2 分という結果でした。平日の学習時間では2学年が、土日の学習時間では3学年が一番長い時間となり、1学年に関しては、どちらも昨年の数値を下回っている状況です。

**2. 苦手克服への意識向上と支援の必要性**

「苦手教科に力を入れて学習する」生徒は、昨年度の 49.1%から大きく減少し、今年度は全体で 35.0%となりました。昨年に比べて苦手教科を中心に学習するという割合は減りましたが、3年生は家庭学習時間が昨年度から増加していることから学習習慣が身に付いていることが考えられます。



学校では、定期テスト・長期休みの計画づくり等に、自身の生活習慣を振り返る機会を作るなどの取組を行っています。他にも、行事や日々の学習の際には、振り返りを大切にするよう声をかけております。その上で、学校では、引き続き「粘り強く挑む力」と「心をつなぐコミュニケーション力」を育てまいります。保護者の皆様におかれましても、この結果を踏まえ、お子様との対話を通じて、家庭学習の方法や生活リズムについて温かい声掛けと見守りをお願いいたします。

今後とも、御理解と御協力のほどよろしくお願い申し上げます。